

令和2年度 研究委員会「アーカイブ事業」実践事例論文公募の結果について

研究委員長 田沼茂紀

令和2年度より研究委員会「アーカイブ事業」として実施した実践事例論文公募に際し、会員各位の深甚なるご理解と積極的なご応募を賜り、研究委員会として厚く御礼申し上げます。

さて、この度公募いただいた実践事例論文を学会ホームページで公開するにあたり、研究委員会内にて「事例掲載検討についての内規」に則って掲載の可否を検討させていただきました。応募実践事例論文は8編（分類Ⅰ「道徳科授業の工夫」が7編、分類Ⅱ「道徳教育カリキュラム・指導体制の工夫」が1編）でしたが、「事例掲載検討についての内規」に照らして検討させていただいた結果、下記の論文が掲載されることとなりましたので、ここにご報告申し上げます。

《令和2年度 研究委員会「アーカイブ事業」実践事例採用論文》

分類Ⅰ：論文テーマ「教科書外教材の活用とパッケージ型ユニットによる質的転換を目指して」

執筆者 吉野 剛史会員（所属／横浜市立東台小学校）

なお、本事業では最終的に実践事例論文を1編のみに絞り込むといった発想はもっておりません。あくまでも「事例掲載検討についての内規」に則っての掲載可否検討となります。また、掲載に至らなかった実践事例論文については次年度再投稿に向けて研究委員の改善コメントを全員の方にお示しさせていただきました。積極的にご応募いただいた皆様に改めて御礼申し上げるとともに、次年度のさらなる挑戦をご期待申し上げます。

*参考までに、実践事例論文執筆の際にご留意いただきたい事柄を以下に示させていただきます。

- ①その実践研究に取り組む際、執筆者が前提とした問題意識は何ですか。そして、何を明らかにしようとして実践研究に取り組まれたのかその目的意識と目指す成果が明確になっていますか。
- ②その実践研究を進めるにあたり、他の先行事例や先行研究等を確認しながら追試可能な客観性のある方法や手順を用いていますか。
- ③その実践研究で導き出した研究成果の妥当性や効果等は実証できていますか。
- ④その実践研究を考察する際、論理的な飛躍や信憑性に疑念を抱かれるような取りまとめになってはいませんか。
- ⑤その実践事例論文は会員のどなたが一読しても、研究の全貌が容易に理解できる記述表現となっていますか。せっかく取り組まれる実践研究です。平易で読みやすく、その成果を自分も試してみようかと思えるような論文構成に是非とも心がけていただきたいと思います。

*研究委員会では、実践事例論文の取りまとめ方を「オンライン論文作成セミナー」といったワークショップ等開催で支援できないかと考え、検討を進めているところです。今後にご期待ください。